

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 平野区

学 校 名 長吉出戸小学校

学校長名 井上 泰志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉出戸小学校では、第6学年 37名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

<国語>

平均正答率は57.0%で、全国、大阪市平均を下回った。

学習指導要領の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国、大阪市平均を上回り、「書くこと」についても全国、大阪市平均とほぼ同等だったものの、他の事項では全国、大阪市平均を下回り、特に「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「読むこと」では、その差が大きかった。

評価の観点では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国、大阪市平均を下回った。

<算数>

平均正答率は53.0%で、全国、大阪市平均を下回った。

学習指導要領の内容では、全てで全国、大阪市平均を下回り、特に「測定」、「変化と関係」「データの活用」ではその差が大きかった。

評価の観点では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国、大阪市平均を下回った。

<理科>

平均正答率は、47.0%で、全国、大阪市平均を下回った。

学習指導要領の内容では、全てで全国大阪市平均を下回り、特に「生命」ではその差が大きかった。

評価の観点では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国、大阪市平均を下回った。

<児童質問紙>

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は100.0%で、全国、大阪平均を上回った。

自己肯定感、自己有用感に関わる質問では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について、肯定的な回答が8割を超えたものの、全国、大阪市平均を下回った。また、「自分にはよいところがあると思いますか」、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は全国、大阪市平均を大きく下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、漢字を文章の中で正しく使うことができる児童が多く、「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」については、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる児童が多かった。

しかし、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと」については、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが難しい児童が多く、「読むこと」については、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることが難しい児童が多かった。また、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して使うことが難しい児童の少なかった。

〔算数〕

「変化と関係」の領域では、伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことが難しい児童が多かった。「測定」の領域では、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することが難しい児童が少なかった。また、「データの活用」の領域では、目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、理由を言葉や数を用いて記述することが難しい児童が多かった。

〔理科〕

B区分「生命」の領域では、花のつくりや受粉についての知識が身に付いていない児童が少なく、発芽するために必要な条件についても、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することが難しい児童が多かった。また、A区分「エネルギー」「粒子」の領域では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていない児童が多かった。

質問調査より

特別の教科道德の時間を中心に、学期に1回以上いじめについて考える機会を設定したり、人権教育を計画的に実施することを継続していることで、児童のいじめに対する意識はさらに高まった。

しかし、体験的な学習活動の充実を図ったり、たてわり活動等の異学年交流を積極的に実施しているものの、児童の自己肯定感や自己有用感は向上しているとは言えない。

今後の取組(アクションプラン)

○「対話的、主体的で深い学び」に向けた授業作りのための校内研修による授業力の向上、各種学力調査や校内調査結果に基づいた個別支援の充実、総合的読解力育成プログラムの着実な実施により、より汎用性のある学力の向上を図っていく。

○専科指導の充実させ、専門性を生かした理科指導の充実を図っていく。

○日常的な情報交換と学期に1回の事例交流会の確実な実施に加えて、いじめアンケートやICTを用いたスクリーニングを積極的に行うことによって、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。

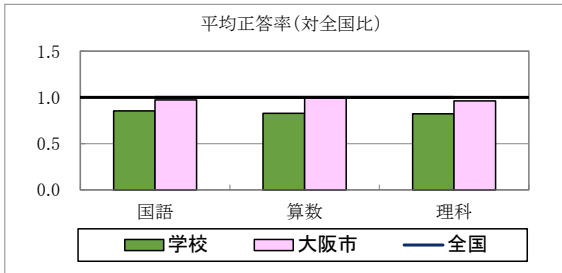
○人権教育の実践を年間計画に沿って確実に行い、校内外の実践交流会を通して指導力の向上を図る。

○宿泊行事、異学年交流、縦割り活動等の多彩な体験的な活動内容を工夫し、児童がより主体的に活動に取り組ませることによって、児童が自己肯定感や自己有用感を強く感じられるようにする。

【 全体の概要 】

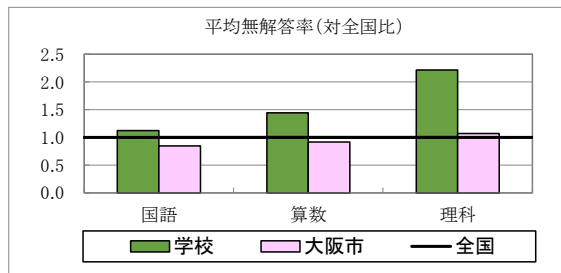
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	57	48	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	3.7	5.2	6.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



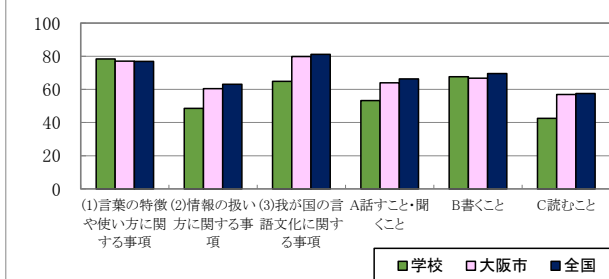
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	78.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	48.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	64.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	53.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	67.6	66.7	69.5
C 読むこと	4	42.6	56.9	57.5

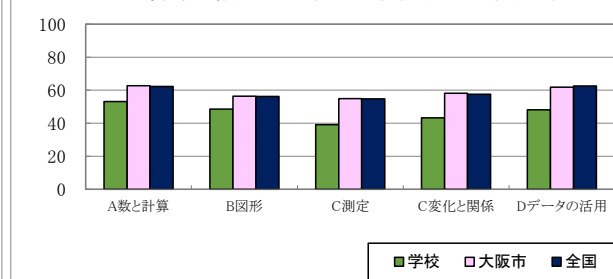
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	53.2	62.7	62.3
B 図形	4	48.6	56.4	56.2
C 測定	2	39.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	43.2	58.2	57.5
D データの活用	5	48.1	61.9	62.6

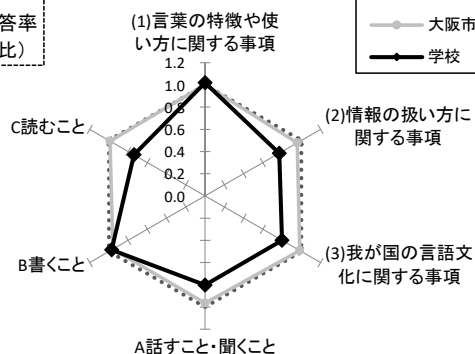
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



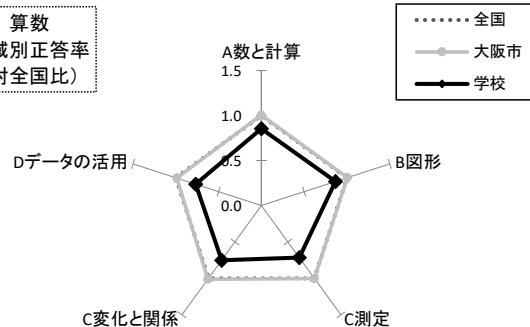
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

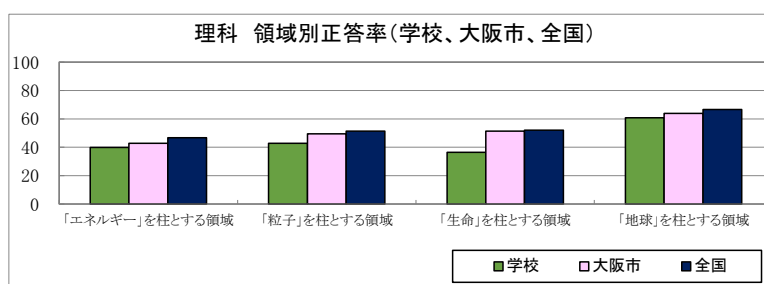


算数
領域別正答率
(対全国比)

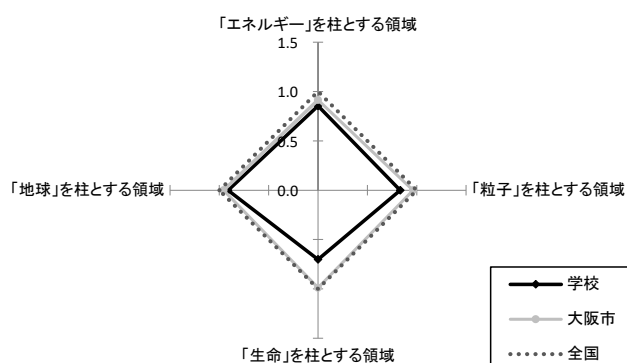


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.9	42.7	46.7
	6	42.8	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	36.5	51.4	52.0
	6	60.8	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

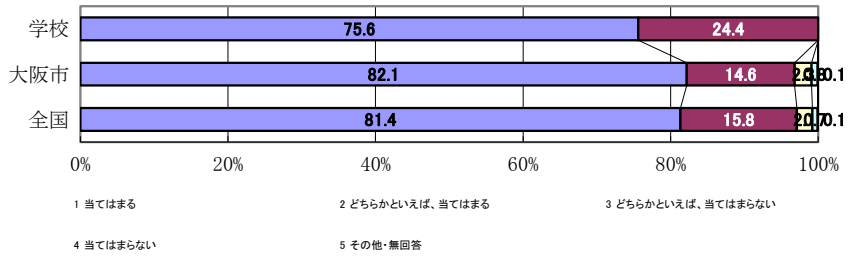
質問番号

質問事項

9

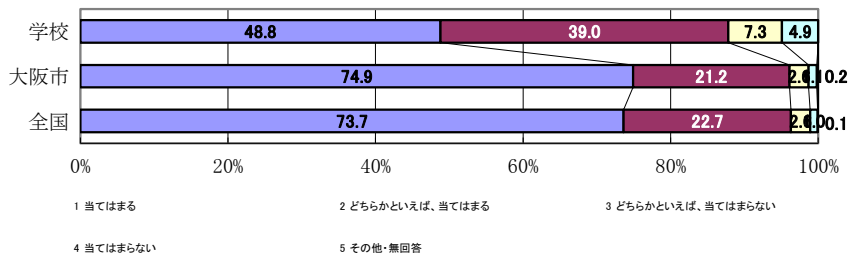
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



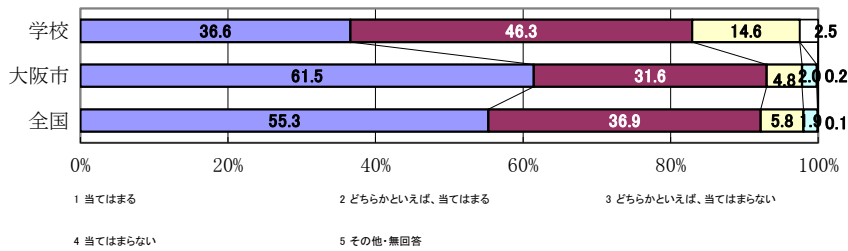
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



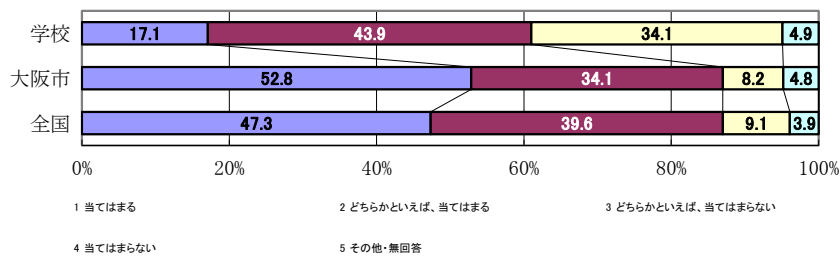
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



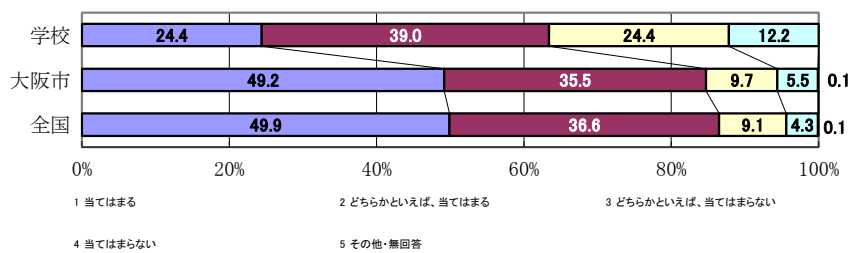
5

自分には、よいところがあると思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

質問番号

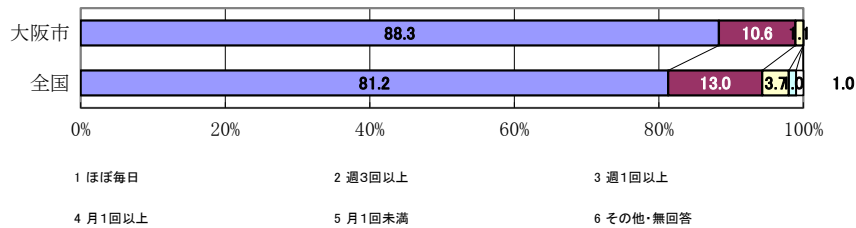
質問事項

55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

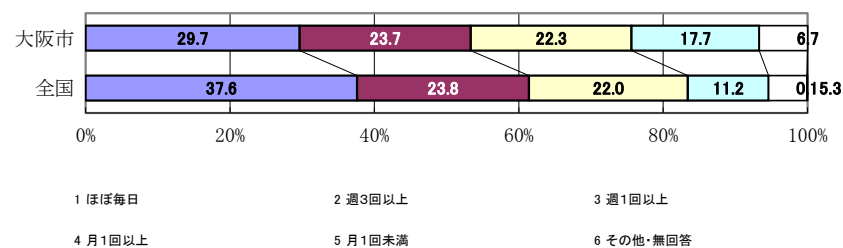
学校 「ほぼ毎日」を選択



61

教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

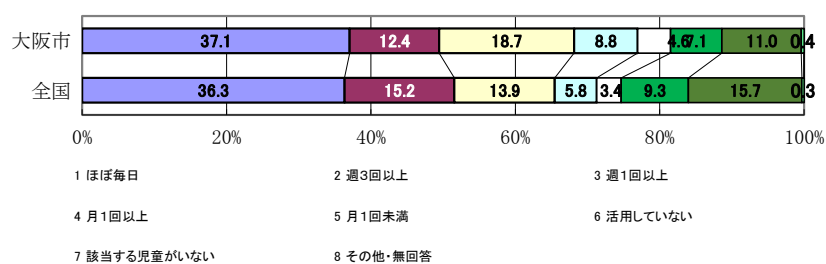
学校 「ほぼ毎日」を選択



67_3

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3) 特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援

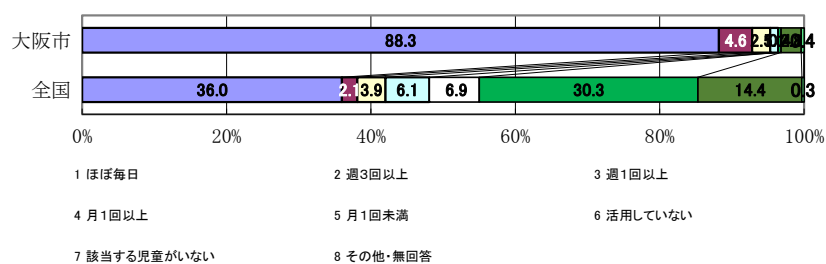
学校 「ほぼ毎日」を選択



67_5

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5) 児童の心身の状況の把握

学校 「ほぼ毎日」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

